

事業群評価調書(令和4年度実施)

| | | | | |
|-------|--------------------------------|----------------|---|------|
| 基本戦略名 | 3-2 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る | 事業群主管所属・課(室)長名 | 企画部 政策企画課 | 浦 亮治 |
| 施策名 | 4 しまや半島など地域活性化の推進 | 事業群関係課(室) | IR推進課、地域づくり推進課 | |
| 事業群名 | ④ 広域連携の推進による県北地域の活性化 | 令和3年度事業費(千円) | ※下記「2. 令和3年度取組実績」の事業費(R3実績)の合計額 171,568 | |

1. 計画等概要

| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|------------|----|----|----|----|------------|---|
| (長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文) | | (取組項目) | | | | | | | |
| <p>県北地域の特性を活かし、歴史的・地理的につながりが深い本県と佐賀県との緊密な連携により、交流人口の拡大や地域振興などに取り組みます。また連携中枢都市圏(西九州させほ広域都市圏)の運営や事業が円滑に行われるよう助言や支援を行い、人口減少社会において活力ある経済・生活圏を維持、形成します。</p> | | <p>i) 肥前窯業圏の活性化に向けた取組 ii) 伊万里湾周辺自治体における地域資源を活用した地域活性化 iii) JR佐世保線の高速化による輸送改善</p> | | | | | | | |
| 事業群 | 指標 | 基準年 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 最終目標(年度) | <p>(進捗状況の分析)</p> <p>肥前窯業圏の活性化に向けた取組として、「肥前窯業圏」活性化推進協議会における陶磁器文化等の魅力発信をSNS等で行うとともに、西九州させほ広域都市圏協議会に参加し、連携中枢都市圏等の地域間連携を推進するなど、県境周辺地域における広域的連携を推進しながら、県北地域における交流人口拡大、地域経済活性化に取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観光分野等の連携に向けた協議・調整が進まなかったことから、実績が2件に留まったが、引き続き広域連携の推進による県北地域の活性化に努めていく。</p> |
| | 連携した取組に基づいて事業化した数(継続) | 目標値① | 3件 | 3件 | 3件 | 3件 | 3件 | 3件 (R7) | |
| | | 実績値② | 2件 (R元) | | | | | | |
| | | 達成率②/① | 66% | | | | | | 遅れ |

2. 令和3年度取組実績(令和4年度新規・補正事業は参考記載)

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 事業事業名 | 事業費(単位:千円) | | | 事業概要 | 指標(上段:活動指標、下段:成果指標) | | | 令和3年度事業の成果等 | |
|-----------------|------|------|--------------------|------------|----------------|--------------|---|---------------------|------|------|-------------|---|
| | | | | R2実績 | うち一般財源 | 人件費(参考) | | 主な指標 | R2目標 | R2実績 | | 達成率 |
| | | | | R3実績 | | | | | R3目標 | R3実績 | | |
| | | | | R4計画 | | | | R4目標 | | | | |
| | | | | 事業実施の根拠法令等 | | | | | | | | |
| | | | | 事業期間 | 法令による事業実施の義務付け | 県の裁量の余地がない事業 | 他の評価対象事業(公共、研究等) | | | | | |
| | | | | 所管課(室)名 | | | | | | | | |
| 取組項目 i ii | ○ | 1 | 振興局活動推進費(県北プロジェクト) | | | | <p>本県、佐賀県及び関係自治体、団体等で設置する「肥前窯業圏」活性化推進協議会において、産地への誘客促進のためSNS等を活用した情報発信を行い肥前窯業圏の認知度向上を図るとともに、産地の素材を盛り込んだ周遊パスポートを作成し、来訪者の周遊化と消費喚起につなげることで県北地域の経済活性化を図った。</p> | 【活動指標】 | | | | <p>●事業の成果 ・産地の特色を活かした着地型旅行商品素材を2件創出できたものの、新型コロナウイルス感染症の影響から入館者数は減少した。しかしながら、前年より増加する月も徐々に始まっており、今後の回復が期待できる。 ●事業群の目標達成への寄与 ・「肥前窯業圏」活性化推進協議会において、文化観光創出事業(体験コンテンツの作成等)の構築及び実施により目標達成に寄与した。今後も継続した事業の展開により連携を深めていきたい。</p> |
| | | | | 3,000 | 2,850 | 14,022 | | 2 | 2 | 100% | | |
| | | | 3,000 | 1,500 | 13,826 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | R3-4 | | | | 【成果指標】 | | | | | |
| | | | 地域づくり推進課 | — | — | — | 圏域内主要文化施設の入館者数(千人) | 137 | 134 | 97% | | |
| | | | | | | | | 138 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|---|---------------------|---------------|---------|-----------------|---|---------------------------------|-------|------|------|---|
| 取組 項目 ii iii | ○ | 2 | 特定複合観光施設導入 推進事業費 | 157,142 | 151,011 | 78,240 | 本県へのIR導入に向け、公募・選定手続きによってIR事業者を選定し、区域整備計画案を作成するとともに、九州の広域連携に向けた働きかけや県民の理解を深めるための広報活動等を行った。 | 【活動指標】 | 93 | 155 | 166% | ●事業の成果 ①公募・選定手続きを進め、IR事業者を選定した。(令和3年8月) ②九州IR推進協議会を設立し(令和3年4月)、IRシンポジウムや(令和3年12月)、MICEフォーラム(令和4年1月)を開催したほか、多様な発注の受け皿づくりや事業者間のマッチング、九州・長崎IRを拠点とした広域周遊観光の構築などをオール九州で取り組み、IR実現に向けた機運醸成と事業計画の具体的な浸透を進めた。 ③九州地方依存症対策ネットワーク協議会を設立し(令和3年8月)、情報共有や連携強化を図りながら、eラーニングによる人材育成プログラムを作成した。 ④IR区域整備計画素案(令和3年12月)、及び同計画案(令和4年3月)を作成した。 ⑤公聴会の開催(令和4年3月)のほか、県民向けのWebセミナーや県政出前講座等を開催し、延べ5,202名が参加するなど、理解促進を進めることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 上記の成果により、目標であるIR区域認定の獲得に向けて、令和4年4月末を期限とする国への申請準備を着実に進めた。立地市町村である佐世保市及び公安委員会の法定協議を経て、県議会の議決を受けた後、区域整備計画の認定申請を行い、国に正式に受理された。 |
| | | | | 168,568 | 159,593 | 123,330 | | 関係機関(佐世保市・九州の経済団体等)との会議等開催回数(回) | 155 | 430 | 277% | |
| | | | | 173,163 | 154,684 | 128,254 | | 【活動指標】 | — | — | — | |
| | | | | 特定複合観光施設区域整備法 | | | | 国の審査委員会におけるプレゼンテーション | — | — | — | |
| | | | | | | | | 【成果指標】 | 策定 | 策定 | 100% | |
| | | | | | | | | 実施方針の策定 | — | — | — | |
| | | | | | | | | 【成果指標】 | 公募・選定 | 公募開始 | — | |
| | | | | | | | | 事業者の公募・選定 | 公募・選定 | 選定 | 100% | |
| | | | | | | | | 【成果指標】 | — | — | — | |
| | | | | | | | | 区域整備計画の作成(件) | 1 | 1 | 100% | |
| | | | 【成果指標】 | — | — | — | | | | | | |
| | | | 区域認定(件) | — | — | — | | | | | | |
| | | | 【成果指標】 | — | — | — | | | | | | |
| | | | 実施協定締結(件) | 1 | — | — | | | | | | |
| H26- | | | — | — | — | — | | | | | | |
| IR推進課 | | | — | — | — | 長崎県・佐世保市IR推進協議会 | | | | | | |

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

| | | | |
|-----|-----------------------------|--|---|
| i | 肥前窯業圏の活性化に向けた取組 | ●実績の検証及び解決すべき課題 肥前窯業圏の活性化に向けた取組として、「肥前窯業圏」活性化推進協議会における陶磁器文化等の地域の魅力発信をSNS等で行うとともに、連携中枢都市圏等・地域間連携を推進するなど、県境周辺地域における広域的連携を推進しながら、県北地域における交流人口の拡大、地域経済活性化に取り組んでいるが、新型コロナウイルスの影響もあり、広域連携に向けた協議・調整が進まなかった。 JR佐世保線の輸送改善に向けた取組については、令和4年9月の九州新幹線西九州ルートの開業に合わせて、JR佐世保線の高速化が実現するよう、地上設備の整備を実施していくことが必要である。 | ●課題解決に向けた方向性 新型コロナウイルスの影響もあり、観光分野等の連携に向けた協議・調整が進まなかったことから、実績が2件にとどまったが、引き続き、広域連携の推進による県北地域の活性化に努めている。 JR佐世保線の輸送改善に向けた取組については、JR九州や佐世保市と連携し、進捗状況を確認しながら、着実な工事の実施を図る。 |
| ii | 伊万里湾周辺自治体における地域資源を活用した地域活性化 | | |
| iii | JR佐世保線の高速化による輸送改善 | | |

4. 令和4年度見直し内容及び令和5年度実施に向けた方向性

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 令和4年度事業の実施にあたり見直した内容 | | 令和5年度事業の実施に向けた方向性 | | |
|-------------------|------|------|------------------------|---|-------------------|--|-------|
| | | | 事務事業名 | ※令和4年度の新たな取組は「R4新規」等と、見直しがしない場合は「—」と記載 | 事業構築の視点 | 見直しの方向 | 見直し区分 |
| | | | 事業期間 所管課(室)名 | | | | |
| 取組項目 i ii | ○ | 1 | 振興局活動推進費 (県北プロジェクト) | 誘客促進事業の強化、現状を踏まえた協議会運営の検討 | ⑤⑥⑦ | 「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づき、協議会事業の推進体制の強化や産地間の連携による自走の促進、産地人材育成による誇りの醸成などにより肥前窯業圏域の活性化を推進していくための取組を継続・強化する必要があるため、事業の再構築を検討し、今後も県北振興局プロジェクトの一環として肥前窯業圏の取組を支援していく。 | 終了 |
| | | | R3-4 | | | | |
| | | | 地域づくり推進課 | | | | |
| 取組項目 ii iii | ○ | 2 | 特定複合観光施設導入 推進事業費 | ○区域整備計画の整備について、IR事業の実施状況を評価し、国に報告するモニタリング業務を推進するため、IR事業評価委員会(仮称)を設置する(R4新規) ○IRがもたらす高い事業効果を広く普及させるため、県内商工会議所・商工会に対する説明会を開催する(R4新規) | ⑨ | ○IRがもたらす経済効果や雇用創出効果享受するため、九州IR推進協議会を通じた民間事業者の自発的な取組の促進や九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアムの形成による専門人材の育成・確保に向けた取組を推進する。 ○IR開業後のMICE誘致に向けた具体的な施策を展開する。 ○区域整備計画に基づく事業の実施状況に関するモニタリングを実施しながら、着実かつ効果的な事業推進を図る。 | 拡充 |
| | | | H26- | | | | |
| | | | IR推進課 | | | | |

注:「2. 令和3年度取組実績」に記載している事業のうち、令和3年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点